熊谷高校の絵画史をめぐって

―熊中・熊高が紡ぐ絵 画の歴史とくぬぎ会館―

明治二十八年（一八九五）における埼玉県第二尋常中学校としての創立以降、埼玉県第二中学校、埼玉県立熊谷中学校、そして埼玉県立熊谷高等学校と名称を変えながらも熊谷の地に根を下ろし、地域に愛されながら熊中生・熊高生の精神は引き継がれている。この継承されてきた精神の中で、特に顕著として発信されてきた分野が「絵画」である。

元来、熊谷の地域は名画家や名筆家が多く生み出され、社寺建築における格天井や襖絵など卓越した絵画や書を残してきた。現在でもそれらの作品の多くが保存され、熊谷の歴史を知る上での貴重な資料となっている。また、江戸時代に活躍した渡辺崋山が熊谷を訪れ、地誌の編纂のために滞在した間、多くの絵や文書を残した。また、明治時代になると南画と呼ばれる中国の風景を素材にして絵を描いた女流画家の奥原静湖も熊谷に画室を設け、名画を残すと共に弟子を育てている。このように熊谷では絵画の文化が浸透し、多くの民衆が関心を持ちながら書画を眺めていたことが分かる。

熊谷と絵画。その明治以降の歴史を顧みる時、熊中・熊高と熊谷絵画との関係は極めて深いものであった。その筆頭に挙げられるのが、森田恒友である。恒友は、明治十四年、旧大里郡玉井村に生まれ、埼玉県第二尋常中学校に入学。その後、上京し東京美術学校西洋画科にて学んだ。卒業後において中央画壇で活躍し、渡欧するなど研鑽を積んだ。セザンヌの絵画に共鳴し、帰国後も印象派絵画を描き続いていたが、後半期になり日本画に転向し、温かみのある絵を描き続けた。

恒友晩年の活躍と同じくして、熊中では美術教育においても大きな進展を遂げていた。その中心人物が、大久保喜一である。東京美術学校西洋画科にて黒田清輝らの指導を受けた大久保は、大正七年に熊谷中学校に着任し、美術教師として多くの後進の指導に当たった。翌年には県下初の洋画団体「坂東洋画会」を結成し、芸術文化の普及活動に力を注いだ。彼の代表作である《実験室》（熊谷市指定文化財）は、「ガラスの大久保」と高い評価を受けた描写力をいかんなく発揮した名作であり、熊高くぬぎ会館に展示されている。

森田恒友《プロバンス風景》 大正3年

里見明正《堤（ヤギ）》 昭和18年

須田剋太《歌う若人二人》 昭和53年

大久保喜一《実験室》 大正11年

熊中にて大久保の薫陶を受けた代表的な画家に、須田剋太と里見明正がいる。須田は、昭和二年に熊中を卒業後、独学で絵画を学び独自の世界観を設えた多彩な作品を残した。サンパウロ・ビエンナーレ展への出品など世界的に活躍した画家であった。《歌う若人二人》は、須田の強靭な筆致がそのまま表現され、二人の人物像からは溢れんばかりの生命力を感じることができる。

里見は、明治四十五年、熊谷の桜町に生まれた。昭和六年に熊中を卒業し、東京美術学校に て油絵を学んだ。その後、デフォルメされたフォルムと鮮明な色彩を用いた「里見スタイル」を確立し、名声を博した。その後、大久保の「坂東洋画会」を引き継いだ「朱麦会」の初代会長となり、熊谷地域の文化振興に貢献した人物でもあった。市指定文化財である《堤（ヤギ）》は情熱的で鮮やかな黄色を用いて堤上のヤギを描写したものである。現在、熊高くぬぎ会館にて展示されている《志賀高原》も里見独特の黄色を下地に置き、抽象画の要素を多分に含んだ名画である。

熊中・熊高を萌芽とした絵画の歴史は、いわゆる「鎌倉文士に浦和画家」に比肩しうる「熊谷画家」の歴史であると言えよう。森田が梅原龍三郎らと結成した春陽会にて精力的に作品を発表した赤石眞三や北爪益雄。大久保に影響を受け、教育者として絵を描き続けた谷部正や松崎元治。二期会への出品で全国的な評価を高めた出口喜平。熊高（第一回）を卒業し、東京藝大、フランス・ルーブル美術学校にて研鑽を深め、独自の色彩と画法で戦後絵画を牽引し続けている志郷武久。熊中・熊高出身の画家、美に枚挙の暇がない。そこには飽くなき探究心に基づいた絵画芸術の神髄とその伝統が見出せるのである。

（Y）

くぬぎ会館

平成七年（一九九五）十月、熊高創立百周年記念として竣工した。卒業生の交流の場として、同窓会及び後援会の事務局として使用される他、三階の会議室には熊中・熊高出身の画家、美術教師による絵画作品が展示されている。今後、定期的な公開を模索している。

文化財で街おこし

熊谷市には国宝に指定された「歓喜院聖天堂」を始め、意外な場所に所在する史跡や記念物など、熊谷の歴史を知る上で重要な「文化財」や、文化遺産」が多く残されている。それらにスポットライトを当てることで、街の文化・芸術・歴史を再認識することにつながると考えています。それが文化財を活かした街おこしの起点になることを願っています。

「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」
日本美術史上、貴重な仏画

平成二十五年六月十九日、市内の常光院が所有する「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」が、国指定の重要文化財（国指定有形文化財）に指定された。

「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」は、浄土図と来迎図を組み合わせた特殊な構成を示す作品であり、両面上部から浄土図を描き、正面向きの阿弥陀如来と聖衆の来迎を表し、最下段には宝地段が描かれ、その左右に中条常光夫妻と伝えられる男女の姿が描かれている。鎌倉時代後期の特殊な形式の浄土教絵画として貴重であると評価された。

本図は、常光院が所有し、埼玉県立歴史と民俗の博物館において保管されている。

なお、重要文化財指定に向けた文化庁の調査によって、来迎図の表装の周囲から一文字回しの銘文が発見された。それらは「安養抄」（作者不詳）及び了恵・黒谷上人語灯録（文永十一年～十二年 一二七四～七五）より撰文されたと見られている。これが本絵図の製作時期の上限を示すものと考えられ、十三世紀後半の作図である点が裏付けられた。

山下祐樹

1982年、埼玉県熊谷市生まれ。埼玉県立熊谷高等学校、明治大学政治経済学部卒業、明治大学大学院政治経済学研究科修了、独立行政法人国立文化財機構・東京文化財研究所を経て、熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係（熊谷市立江南文化財センター）勤務。学芸員。有形文化財及び民俗文化財、記念物担当。近年は「歓喜院聖天堂」の国宝指定などに携わる。著作に、『市民社会のロゴス共同体のトポス』（2010）、『ミネルヴァの記憶 プロセルピナの薔薇』（2011）等がある。

熊谷商工信用組合総代会に於いて ご寄附を賜りました。

17号国道のランドマークとなったくましんさんの新社屋で総代会が開催されました。

昨年に引き続き、鴨田理事長様より小麦の会に多大なご寄附を賜りました。当会より目向会長が出席のご案内を頂き、御伺いさせて頂きました。

ご臨席の皆様全員に「タウンタウン9号」が配布され、飯田専務理事様より丁寧なご説明を頂きました。地元金融機関様からの心からなる支援は会員の大きな励みとなります。本当に有難く存じました。

くましんさんは地元の活性化に御取り組みをなされ、1階ホールでの絵画展、6階の大ホールでの講演会、音楽会等を計画され、地元の方々の発表の場を提供頂いております。共に手を取り合っての町おこしの強い味方です。

埼玉県物産観光館「そぴあ」に出展

平成25年8月9日（金）から、埼玉県北部地域振興センターの支援により、県内のNPO法人として初めて、特定非営利活動法人くまがや小麦の会が、埼玉県物産観光館「そぴあ」に出店しました。

ブランデーに漬けておいたドライフルーツがアクセントのパウンドケーキ、あつべえサブレ、くまサブレなどを販売しています。

埼玉県物産観光館「そぴあ」
住所：さいたま市大宮区桜木町1-7-5
ソニックシティビル2階
（パスポートセンター隣）
営業時間：10：00～18：00（2階店）
http://www.sainokuni-kanko.jp/?page_id=62

宮城県気仙沼市立気仙沼小学校訪問

東日本大震災から二年半が経過しました。

9月9日、「くまがや小麦の会」の日向美津江会長、吉田嘉高副会長と2名の会員が気仙沼小学校を訪問しました。今年は第3回目となりました。案内役としては、今回も埼玉県出身で気仙沼在住の小山敏江さんにお世話になりました。

山崎昭校長先生に会長より「くまがや小麦の会」からのささやかな義援金を手渡しました。気仙沼小学校の児童数は本年度382人で昨年より30人減少しているとのこと。昨年までは2名の養護教諭が子どもたちの心のケアに当たっていたようです。今年は保健室を訪ねる子どもの数が以前よりかなり少なくなってきており、少しずつ子どもたちの心は立ち直りつつあるようです。気仙沼小学校の子どもたちの遠足は「この2年間、全校で気仙沼を一望できる安波山への登山でした。山の上から自分たちの住む町をしっかり見届けることを目標としたようですが、今年は各学年で行き先を検討し実施しているとのこと。

巨大津波が傷痕を残した被災地の様子はニュースでもたくさん報道されています。気仙沼の「第18共徳丸」の存在は、津波の脅威を後世に伝える存在として保存の有無が問われておりました。7月の市民アンケートの結果、約70％が保存の必要なしの回答となり、解体されることになりました。私たちが訪問した当日から解体作業が始まりました。被災地の復旧・復興の道のりは、まだまだ遠いという印象を強く感じました。（M.M）

祭りの後の戦士たち
熊谷市役所職員の清掃業務

関東一の祇園祭を冠とする熊谷うちわ祭（7月20日・22日）の中日、早朝、熊谷郵便局に宅配便を出しに出かけた。市役所通りの歩道を作業服に身を包んだ数十人の人が、ひたすらごみ取りと箒を持って清掃に汗を流している。誰かと思い近づくと、小麦の会で御世話になっている商業観光課の面々ではないか。つい「何しているのですか？」と一目瞭然なのに言葉が出てしまった。祭りの朝は毎年、前日のごみ拾いを実施しているとの事でした。

市職員が清掃業務を黙々とこなす事に新鮮な感覚が湧き、心が解き放たれた。清掃をこの通りの方たちと又、民間のボランティアと一緒に出来たら官と民の細やかな連携が築かれるに違いない。清掃が心通わせるイベントになるとまで思った。感動は定着しなくてはと、ご無理をお願いして、祭りの後の戦士たち・の記念撮影を厳行させて頂いた。来年のうちわ祭の早朝は熊谷市役所職員の皆様と市役所通りの皆様、ボランティアが一緒に清掃を致しましょう！（H）

くぼじまグループ
くぼじまクリニック
KUBOJIMA CLINIC
理事長・院長 大島譲二
●総合内科（かかりつけ医）
●人工透析
熊谷運動公園北・入院設備有
〒360-0831 熊谷市久保島 1785-2
TEL:048-533-7511（代）FAX:048-533-4606
http://www.kubojima.com/

TMS ㈱田代マネジメントサービス 田代会計事務所
http://www.tashiro-ms.co.jp/
『企業経営支援サービス業』
○会計帳簿の記帳代行および記帳指導
○法人税・所得税・消費税・相続税等に関する税務相談
○調査立会いその他税務代理
○経営分析、経営のアドバイス
○法人設立、個人事業開始相談
○医療法人設立、開業相談
埼玉県熊谷市銀座3丁目97番地2
TEL048-521-1094 FAX048-525-6437
E-mail：tms-01@tashiro-ms.co.jp

株式会社 木島陸運
URL http://www.kijiriku.co.jp/
トラック グリーン経営 クレーン ISO9001 倉庫 天井クレーン付
本社営業所 〒360-0023 熊谷市佐谷田489-1 TEL 048-527-3344 FAX 048-527-0007
深谷営業所 〒366-0812 深谷市折之口1948 TEL 048-571-3344 FAX 048-573-0007

株式会社 平松
代表取締役 日向研一朗
歴史が育む無限の可能性…地域密着・食品卸売業
原材料食品は包材まで御用命下さい
We are HIRAMATSU
〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL：048-521-0026
●ビッグベアショッピングモール（埼玉県熊谷市代1067）
西友・ライバラス・スポーツオーソリティー・ブルーンカフェ・大黒軒
●平松運輸株式会社（埼玉県熊谷市中奈良1797-1）

吉見商事株式会社
吉見グループ代表取締役 大久保 和政
"食文化"に地域と共に成長を続ける吉見グループ
■本社 〒360-0024 熊谷市問屋町2-4-18
ゆとりの熊谷情報センタービル5F
電話 048-528-3300(代)
■株式会社ヨシミフーズ ■株式会社ヤマイチ ■株式会社ソシオロジテク
■株式会社スキルプラザ ■株式会社ヨシミ総合サービス
■合資会社吉見屋商店

熊谷の風土と歴史の香りをお届けします
勇猛富戦 熊谷産ビール
モンドセレクション 3年連続受賞
「熟れた麦芽を保ったのち、有機特別栽培の麦芽100%使用のコクと爽やかな飲み口を生み出したビールです。」
そら豆の焼酎 豆蔵
「ゆでたてのそら豆の風味をそのまま生かした若々しい香りと豊かなコク」
日本で初めてのそら豆の焼酎です。
小麦の語らい
熊谷産小麦・米100%使用
全国有数の小麦の名産地、熊谷で育ったきらりとした口当たりの小麦焼酎です。
近江屋酒店
定休日：日曜日
http://www.oumiyasaketen.com/
熊谷市肥塚4-7 TEL.048-521-1009 FAX.048-521-3198

りっしょうようちえん
立正幼稚園
入園に関するご質問、お待ちしております。
子育てに関するご相談をお電話でもお受けしております。
理事長 及川周介
園 長 馬橋 旭
学校法人熊谷立正学園 立正大学系列 立正幼稚園
〒360-0164 埼玉県熊谷市楊井1748-2
Tel：048-536-1688
Fax：048-536-2168
E-mail:yochien@rissho.ed.jp
URL:http://www.rissho.ed.jp/

創業130年 熊谷老舗の瓦せんべい
インターネットからのご注文は24時間受付中！
http://www.gunbai.co.jp/
中家堂
お問合せ・ご用命は、
TEL：048-527-1001
FAX：048-523-5655
〒360-0042 埼玉県熊谷市本町2-60